

西和医療圏における病床整備計画に関する意見等について

【概要】

病床整備計画の申請に対し、西和構想区域地域医療構想調整会議での協議充実に向けた資料とするため、西和医療圏内の病院から意見をうかがうもの。

【期間】

令和6年8月6日～23日

【対象病院】

患者の受療動向を踏まえ下記のとおり実施

- 医療法人友紘会：西和7町地区内病院
- 生駒市：生駒地区内病院
- 医療法人悠明会：大和郡山地区

【回答】

別添のとおり

申請者：医療法人友紘会

意見照会対象：西和7町内病院

※記載内容について問い合わせをすることがございます。

① 申請医療機関が現在果たしている地域での役割、貴院との役割分担・連携の現状について

申請医療機関である奈良友誼会病院様は、地域の医療機関として急性期、亜急性期を中心として多くの診療科目を開設し地域に根差した医療を提供されています。
当院も中等度の急性期と亜急性期を中心に、特に救急医療に力を入れています。診療分野は重複する部分もありますが、お互いの地域性をあり現在も医療連携をさせて頂いているのが現状です。

② 申請医療機関が新たに整備する病床が担おうとする機能・役割の地域での過不足感について

西和医療圏における地域医療を確立することを考えますと、亜急性期、慢性期の充実が必須と考えており、高度・重症急性期からの早期受け入れや介護施設への橋渡し、在宅医療・看護への橋渡しは高齢者人口の増加が見込まれる今後も更に必要となると考えます。

③ 仮に、病床が整備された場合の貴院との連携の方向性について

西和医療圏において各医療機関、介護施設等の連携により、質の高い医療・介護を地域の方々に提供できるよう、今後更に医療連携を深めていきたいと思っております。

※一枚に収まるようにご回答ください。

①申請医療機関が現在果たしている地域での役割、貴院との役割分担・連携の現状について

奈良友誼会病院をかかりつけとする定期通院患者様、またはそのご家族様より、認知症様の症状の訴えや、物忘れに関する相談、また頭部 MRI 検査の画像から必要と判断された方の認知症鑑別診断を目的とした当院への受診紹介がある。

西和圏域のかかりつけ医として、専門機関への受診を促し、認知症の早期治療へつなぐ働きかけを行っていただいている。

また、精神科単科である当院は身体症状を伴う精神科救急の要請においては、まず身体治療の緊急性がないことの確認が必要となるが、一旦、奈良友誼会病院にて熱源精査を済ませた患者様を引き受けるという連携事例もある。軽症急性期を担っている病院で、前段階の診断を引き受けてくれることは、当院としても心強い。

②申請医療機関が新たに整備する病床が担おうとする機能役割の地域での過不足感について

当院は内科医常勤体制であるため、入院患者様の急変による受診や転院は、重症急性期への依頼となることがほとんどであり、この度の過不足感についての判断は難しい。

③仮に、病床が整備された場合の貴院との連携の方向性について

上記回答の通り、当院の入院患者様の転院先としては重症急性期となることが多いが、重症急性期病院の病床が流動的になるための連携が活性化されることは、間接的に当院の救急要請がスムーズになると考える。

※一枚に収まるようにご回答ください。

① 申請医療機関が現在果たしている地域での役割、貴院との役割分担・連携の現状について

両院とも面倒見のいい病院群に属しており、直接的な役割分担、連携は少ない。西和医療圏における西和医療センターを中心とした病病連携で間接的な役割分担、連携は密にある。

② 申請医療機関が新たに整備する病床が担おうとする機能・役割の地域での過不足感について

人口過密地域ではない上牧町における過剰感が少ない現状と、日々の診療において地域包括ケア病床の不足感を感じることがない現状において、同じ規模・機能の病院が併存することで受診する住民のデメリットも想定できる。

③ 仮に、病床が整備された場合の貴院との連携の方向性について

現状でも横方向の連携は稀であるが、同様の機能を持つことにより連携が更に希薄になることが懸念される。

※一枚に収まるようにご回答ください。

① 申請医療機関が現在果たしている地域での役割、貴院との役割分担・連携の現状について

奈良友誼会病院は地域医療において、急性期から慢性期まで、幅広い役割を果たしています。急性期医療においては、西和地域の救急輪番制度での役割を、恵王病院および奈良県西和医療センターとともに担っています。また、高度・重症急性期医療における入院医療の後半部分、いわゆる亜急性期に該当する患者の受け入れにも積極的に取り組んでいます。西和7町および香芝市・広陵町等の周辺市町村の住民に対して医療を提供するという点では、奈良県西和医療センターと重なる地域をカバーしていますが、一方、西和地域（西和7町およびその周辺）において、高度・重症急性期は奈良県西和医療センターが担当し、軽症急性期医療やいわゆる亜急性期、すなわち転院患者を受け入れて在宅復帰につなぐ医療を、奈良友誼会病院が担うという役割分担と連携が確立されています。また、外来機能においては西和医療センターが紹介患者重点医療機関の役割を担っているのに対して、奈良友誼会病院は、かかりつけ機能、すなわち日常的な医学管理や重症化予防等の診療機能を担っており、相補的な役割になっていますので、入院・外来診療ともに連携することが地域医療のために役立っていると考えています。

② 申請医療機関が新たに整備する病床が担おうとする機能・役割の地域での過不足感について

今回、奈良友誼会病院が整備を申請される病床機能、すなわち、地域包括ケア病棟は、急性期医療を受け、症状が安定した患者の自宅や介護施設への在宅復帰を支援する役割を有するものです。西和地域においては、西和メディケア・フォーラムという医療と介護の連携のための多職種コミュニケーションの場があり、ここでは、急性期医療を終えた患者の在宅復帰が進まないという課題に対する解決策を議論しています。高度・重症急性期病院から直接自宅に復帰させることが困難な患者を無理に急いで復帰させることでのさまざまな問題点（例えば病状悪化による予期せぬ救急搬送や再入院）が指摘されており、高度・重症急性期医療と在宅の間にあたる地域包括ケア病棟等での在宅復帰のための支援の重要性が認識されていますが、地域にはそのような機能を有する病床がまだまだ不足していることも同時に指摘されています。また、地域包括ケア病棟で提供される医療は、急性期医療の後半部分を担当することから、この地域において歴史的に救急医療や急性期医療を提供してきた民間の病院が、働き方改革や医療人不足の時代になっても、その強みを活かせる分野です。そういう意味においても、これらの医療を得意分野とする奈良友誼会病院がその役割を担うことが相応しいと考えています。

③ 仮に、病床が整備された場合の貴院との連携の方向性について

今回、申請される病床は地域包括ケア病棟 49 床と慢性期1床であることから、奈良県西和医療センターとの連携、すなわち高度・重症急性期医療を必要とする患者の入院診療の後半部分の役割を、新たに整備される地域包括ケア病棟への転院という形で奈良友誼会病院が担うことで、急性期診療をシームレスに継続するという病院間連携がさらに大きく進むと考えられます。また、今後急激に増加する90歳代以上の高齢者の誤嚥性肺炎、尿路感染症、心不全などの救急対応を、奈良友誼会病院がさらに取り組むことで、高齢者救急医療を地域で分散して受け入れることが可能となり、地域の救急医療全体により影響を与えられると考えられます。また、将来的に奈良友誼会病院において地域包括医療病棟の要件を満たすための人的補強の努力がなされることで、地域包括医療病棟への転換も可能になるとすれば、通常の高齢者救急医療の充実のみならず西和医療センターからの下り搬送の受け入れ等も進むうえ、リハビリ機能の充実によって在宅復帰の支援も進むことで、地域医療にとってよりよい効果を期待できます。そういう意味で、今回の50床の病床整備は、西和医療センターとの連携の推進だけでなく、西和地域の地域包括ケア全体に資するものと考えています。

※一枚に収まるようにご回答ください。

申請者：生駒市

意見照会対象：生駒市内病院

① 申請医療機関が現在果たしている地域での役割、貴院との役割分担・連携の現状について

現状では、生駒市立病院からは、主に重症患者の受入れを行っております。

② 申請医療機関が新たに整備する病床が担おうとする機能・役割の地域での過不足感について

生駒市立病院が増床を申請されることに対して特に意見等はありません。
当院は急性期の病院ですが、今後、急性期の患者は減っていくと考えられ、運営していくに当たり大変危惧しております。西和医療圏での病床整備につきまして、そのあたりを考慮いただけると幸いです。

③ 仮に、病床が整備された場合の貴院との連携の方向性について

特に現状と変わりはありません。

※一枚に収まるようにご回答ください。

① 申請医療機関が現在果たしている地域での役割、貴院との役割分担・連携の現状について

当院では、対応不可(消化器外科・呼吸器科等)の患者について、地域連携を通しての対応をお願いしているところです。

② 申請医療機関が新たに整備する病床が担おうとする機能・役割の地域での過不足感について

周産期・小児医療の拡充については、一定市立病院としての役割ではないでしょうか

③ 仮に、病床が整備された場合の貴院との連携の方向性について

現在と変わらず

※一枚に収まるようにご回答ください。

① 申請医療機関が現在果たしている地域での役割、貴院との役割分担・連携の現状について

生駒市立病院は、地域の中核的な病院として、救急患者など緊急性のある入院を常時受け入れし、小児救急、周産期にも対応されて地域に貢献していただいております。
当院の役割は、急性期治療後のリハビリテーションから在宅、施設への退院後の訪問支援まで包括的なサービスを提供しており、現状、生駒市立病院からは急性期治療後でリハビリテーションが必要な患者を紹介していただいております。また法人内での受け入れが出来ない場合、代わって生駒市立病院に受け入れをいただいている事例もあります。

② 申請医療機関が新たに整備する病床が担おうとする機能・役割の地域での過不足感について

前述のように周産期・小児医療においてはますます入院ニーズが予想されるため、増床は必要と思われます。一方、内科系・外科系の増床については、現状の病床利用率が 69%であることから、現在使用できる余剰ベッド(210x0.31=65)を利用すれば十分に対応が可能と思われます。また地区の他の病院の現状の病床利用率も同程度であり、地区全体としても病床の不足感はないと考えております。
さらに増床に際して、医師確保計画を計画書の中に述べておられますが、医師働き方改革が進行する中、奈良県立医科大学などからの医師確保はかなり困難であると考えられます。現状でも病院の規模に対して医師数は比較的少なく、増床によってさらに厳しい状態になることが予想されます。

③ 仮に、病床が整備された場合の貴院との連携の方向性について

引き続き、急性期治療後でリハビリテーションが必要な患者を紹介していただき、また当院の入院患者の緊急の受け入れをしていただき、さらなる連携強化をしていきたいと考えております。

※一枚に収まるようにご回答ください。

① 申請医療機関が現在果たしている地域での役割、貴院との役割分担・連携の現状について

生駒市立病院は当該地区においては唯一の公立病院として地域医療の中核を担っている。特に計画書にもあるように周産期医療においては、地域でそれを担う病院が減少するなか分娩数を増やして貢献している。また、小児医療に関しても徐々に体制を整え、地区医師会とも連携を強化しつつある。この二分野の医療体制の整備は生駒市立病院設立時の公約でもあり、評価できる点である。

当院は整形外科・眼科・脳外科・内科の分野で特に高齢者の治療を担っており、生駒市立病院とはある程度役割分担はできている。また夜間の救急体制も当院は単科当直で、疾患内容によっては受け入れができないこともあり、代わって生駒市立病院に受け入れをいただいている事例もある。

② 申請医療機関が新たに整備する病床が担おうとする機能・役割の地域での過不足感について

前述のように周産期・小児医療においてはますますの入院ニーズが予想されるため、増床は必要と思われる。一方、内科系・外科系の増床については、現状の病床利用率が69%であることから、現在使用できる余剰ベッド(210×0.31=65)を利用すれば十分に対応が可能と思われる。また地区の他の病院の現状の病床利用率も同程度であり、地区全体としても病床の不足感はない。

さらに増床に際して医師確保計画を計画書の中に述べているが、医師働き方改革が進行する中、奈良県立医科大学などからの医師確保はかなり困難であると考えられる。現状でも病院の規模に対して医師数は比較的少なく、増床によってさらに厳しい状態になることが予想される。

③ 仮に、病床が整備された場合の貴院との連携の方向性について

当院は地域包括ケア病棟を運営しているので、生駒市立病院での加療のポストアキュートの受け入れは積極的に行っていきたいと考えている。

※一枚に収まるようにご回答ください。

申請者：医療法人悠明会

意見照会対象：大和郡山市内病院

① 申請医療機関が現在果たしている地域での役割、貴院との役割分担・連携の現状について

当院では現在、申請医療機関と役割分担や連携は特に行っておりません。

② 申請医療機関が新たに整備する病床が担おうとする機能・役割の地域での過不足感について

整備する病床について地域での過不足感は特にありません。

③ 仮に、病床が整備された場合の貴院との連携の方向性について

仮に病床が整備された場合は患者のニーズに応じて連携を検討していきたいと思えます。

※一枚に収まるようにご回答ください。

① 申請医療機関（医療法人悠明会：以下同じ）が現在果たしている地域での役割、貴院との役割分担・連携の現状について

大和郡山市西南地区におけるケアミックスを行っている医療機関及び介護福祉複合事業体であって、むしろ介護福祉系の事業展開が目立っている。

在宅医療を行っていると称されているが、当院近辺においては、同事業体が運営する通所・訪問系介護サービスの車両が多く行き交っており、訪問診療を行う医師の顔を直接拝見したことはない。事前協議書において年間 600 人の在宅医療とあるが、いわゆる居住系施設の訪問診療を上乗せして計算しないと実現不可能な数字であって、医師看護人員配置での、より詳細な内訳の検証が必要と思われる。

① 申請医療機関が新たに整備する病床が担おうとする機能・役割の地域での過不足感について

少なくとも大和郡山市域において、申請医療機関が担おうとしているどの病床種別も過剰感が強まっている。当院が運営している療養病床においても、コロナ以前に比べ大幅に病床利用率の低下が生じており、この上、同一市内で慢性医療を担う病院が新設するのは、むしろ医療資源の無駄と思われる、もし開設されるとすれば、地域包括ケア、回復リハ病床に特化した 50 床程度の小規模なものするべきと考えられる。

② 仮に、病床が整備された場合の貴院との連携の方向性について

申請医療機関がやってきたと称されている在宅医療は、結局、当該医療機関と特別な関係を有する介護福祉施設並びに居宅事業との患者入居者利用者の、敢えて申し上げるなら「たらい回し」的の患者のやり取りによって、あたかも在宅医療が行われているように見えているだけではないか。患者家族や地域における関係性、何より本人の主体性とはかけ離れた医療供給サイドから見た効率や合理的な答えを出しているだけのように見える。

主体は患者本人であり、その意思を引出し、そのために必要な医療介護の場だけではなく、本人の生活は無論のこと、本人を取り巻く社会そのものに処方メスを入れることこそが必要であって、そのような視点が見受けられない申請医療機関が新設されることは、地域医療にとって益するものがあるとは到底思えず、明確に反対する。

① 申請医療機関が現在果たしている地域での役割、貴院との役割分担・連携の現状について

在宅医療(往診・訪問看護等)に力を入れておられる。

当院では、件数は少ないが、医療から介護や、在宅への移行が必要な患者様が発生した時に連携を行っています。

② 申請医療機関が新たに整備する病床が担おうとする機能・役割の地域での過不足感について

大和郡山市に於いては特に不足感を感じることはありません。

③ 仮に、病床が整備された場合の貴院との連携の方向性について

急性期医療(脳外・整形等)が必要な時は当院に連絡いただければ対応いたします。

※一枚に収まるようにご回答ください。

① 申請医療機関が現在果たしている地域での役割、貴院との役割分担・連携の現状について

医療法人悠明会の母体「ウェルグループ」は、医療法人、社会福祉法人、特定非営利法人、複数の株式会社で組織されるグループ会社であり、近隣でもグループホーム・デイサービス・小規模多機能施設・特別養護老人ホーム・介護付き有料老人ホームなど、医療や介護・健康・福祉などを幅広く手掛けられており、当院とも地域医療連携の中で、令和5年度はクリニックから70件程度の患者紹介をいただき、当院での外来通院治療や、入院治療を行っている。
また、逆に当院からクリニックへの逆紹介が30件弱、ウェルグループ内の介護老人保健施設や老人ホーム、在宅支援など関連施設への転院・退院紹介が40件弱あり、悠明会と当院とは良好な連携ができています。

② 申請医療機関が新たに整備する病床が担おうとする機能・役割の地域での過不足感について

西和医療圏の大和郡山市の人口推移予測を見れば、人口減が進むものの65歳以上年齢層の減少は少なく、既に高齢化率が全国平均を上回っている状況である。この度の悠明会が開設申請された病床は、この地域の将来の医療需要を考えれば整備が必要な病床とは考える。

しかし、現状を考えれば、特に当院は地ケア病棟が運用されれば競合することになり、申請他病床についても、近隣病院との競合することは明白である。ウェルグループ内で治療から施設・在宅へと、医療と介護が完結できればウェルグループ施設からの紹介患者が減少するだけでなく、さらに他院からの紹介患者が新病院・ウェルグループへ流れる可能性が危惧される。

以上より、現状では当院を含めた既存の病院に与える影響は少なくないと思われる。

③ 仮に、病床が整備された場合の貴院との連携の方向性について

● 当院が近隣であるが故のデメリットとして

現在、医療法人悠明会とは地域医療連携ができており、昨年度クリニックから70件程度の患者紹介をいただいている状況であるが、新たに病院を開設された場合、法人内で治療が完結できるのであれば連携の必要性はなくなる。特に地ケア病棟20床が運用されれば、当院と競合することになり、悠明会からの患者紹介件数(悠明会→当院地ケア病棟への入院患者紹介)が極端に減少し、さらに他院からの紹介患者が新病院へ流れる可能性も併せて当院への紹介患者数の減少が危惧される。

また、新病院開設のために相当数の医療スタッフ(特に看護師や看護助手)の新規採用が予定されているが、当院を含めた近隣医療機関からのスタッフ流出のリスクも想定される。

● 当院が近隣であるが故のメリットとして

新病院の療養病棟44床が運用されれば、当院から転院受け入れ先に難渋する長期入院患者(一般病棟、地ケア病棟)を、悠明会の療養病棟を転院先の一つとして紹介・利用の可能性が広がり、逆に、悠明会から当院へ手術等の治療目的での転院受け入れ等、循環型医療提供の可能性も考えられる。

しかし、悠明会が自院の地ケア病棟への逆紹介を受けるため、地ケア病棟のない当院以外の病院(県総など)への紹介に傾くことも考えられ、当院急性期患者の増加は期待できない可能性がある。(地ケア病棟のない病院からは入院先の選択肢が広がり、歓迎されるが、当院のように地ケア病棟のある病院は患者の奪い合いとなり、患者数の減が予測され、かなり影響を受けると考える。)

また、在宅医療についても、地域医療構想調整会議(西和構想地区)の資料より、大和郡山市に在住の在宅療養者の6割以上が市内の医療機関からの在宅医療を受けている状況から、新病院の運用により、退院患者の在宅医療が法人グループ内関連施設で完結できることになれば、当院の訪問看護ステーション利用者の減にも繋がり、運営に大きな影響を及ぼすことになると思う。

以上より総じて見ると、様々な競合関係により当院は負の影響を受けることが懸念される。

現在、当院としては医師確保の問題や、患者確保に苦慮する中、経営についても厳しい状況が続いている。その中で当院としては今まで以上に奈良県総合医療センターとの連携を強化し、この地域に求められる救急医療や周産期医療、小児医療などの継続も踏まえ、今後、地域病院群での棲み分けや病院の在り方・方向性を十分に考えなければならぬ時期に来ている。

当院としては、大和郡山市唯一の公的医療機関として、医師会の皆さまや市民のご期待に沿えるよう使命を全うできるよう努力いたします。

※一枚に収まるようにご回答ください。

① 申請医療機関が現在果たしている地域での役割、貴院との役割分担・連携の現状について

外来及び入院紹介をいただいております。当院での入院加療を終え、引き続き治療を継続される必要がある患者さまについては、病診連携によりクリニックさまにて診療を継続いただいております。

② 申請医療機関が新たに整備する病床が担おうとする機能・役割の地域での過不足感について

事前協議書にて、設置する病床の内訳等の記載を拝見しますと、地域包括ケア病棟20床、回復期リハビリテーション病棟40床、医療型療養病棟が40床とあります。地域包括ケア病棟については、大和郡山市内でも複数の医療機関が有している病床であり、現在の稼働状況からも不足を感じた事はありません。回復期リハビリテーション病棟については、当院の前年度実績で稼働率 84.7%と満床に至る事がない状況であり、余力がある状況です。療養病棟については、急性期、回復期を経た患者さまが、独居や老々介護、認知症等で自宅退院ができないケースが増加傾向にあります。急性期、回復期医療、慢性期が効率よく患者さまに提供されることを考えると療養病床については不足気味であると思います。

③ 仮に、病床が整備された場合の貴院との連携の方向性について

慢性期において、医療連携が進むことに期待しております。
病床に関しての連携とは異なりますが、当院をはじめ大和郡山市内の急性期医療を担う3病院においては、医療スタッフの減少による確保対策が大変問題になっております。更なる病床整備が、人材確保、定着に影響を与えることは明白であるなか、新病床の増設が医療提供体制に影響を及ぼす可能性が非常に高いと考えます。

※一枚に収まるようにご回答ください。